実際に標準データベースシステムを導入、運用を開始して

Administering the standard registry system: Report from Tochigi prefecture

大木　いずみ*　　佐藤　由紀子　　阿久津　弘子　　鷹箸　淳子

１．はじめに

栃木県は、平成 5 年から栃木県がん登録委員会の指導・助言を得ながら、県が栃木県医師会に委託し、独自のシステムと登録票を用いて事業を実施してきたが、平成 20 年 4 月からは県が直接事業を実施することとなった。

平成 18 年 11 月に標準データベースシステム（標準 DBS）導入申し込みを行い（当時約 10 万件のデータを独自のシステムに蓄積していた)、平成 20 年 7 月から標準システムの運用を開始した。

２．標準DBS導入で良かった点

標準システムの導入によって、同じ方法で実施されている全国や他県データとの比較もでき、栃木県がん対策の計画・実施・評価の上で､ものさしとなる役割を果たすためにも、県独自から標準化への転換は重要であった。

実務の点からも、ダブルエントリーによる入力、同定作業、集約作業、エラーチェックの方法が確立しているため担当者に依存する負担が軽減した｡データの定義やマニュアル、テキストが充実しメーリングリストなどからも援助を受けることができるなどの利点が大きかった。また集計表も同様に全国、他県と比較可能となり報告書の作成に要する時間と労力も軽減した。

３．苦慮した点

移行前からの過去のデータは、標準様式とは異なる栃木県独自の登録票で収集されているため整合性が保てないなどの課題があった。過去のデータについては標準 DBS に移行するにあたり多くの労力と時間を要し、その間の入力業務を一定期間停止していたため、入力待ちの届出票も蓄積した。

さらには、標準システム開始直前に県医師会委託から県の直接事業実施に伴い、職員の入れ替えがあり、地域がん登録の経験のない新たなメンバーで標準システムをスタートしなければならなかった。

４．対策

データ移行に伴い届出票の入力を停止していた期間中に、多くの枚数の届出票ががん診療連携拠点病院を中心に提出された。蓄積する届出票の入力作業を少しでも軽減するために、届出票のコーディング、整理などをその間同時に進めた。

また、標準 DBS 導入後は遅れを取り戻すまでの間、作業人員を確保し、パソコンも調達し、新たにスケジュールを組み直した。

届出票の並びかえ、整理も行作業の効率化を図った。

*栃木県立がんセンター研究所　地域がん登録室
〒320-0834　栃木県宇都宮市陽南 4-9-13

５．今後の予定

がん診療連携協議会のがん登録部会など、地域のネットワークを活用し、今まで以上に届出数を増やすと同時に、遡り調査（平成 21 年に一部実施）や生存確認調査を実施して行く予定である。

Summary

Tochigi prefecture started population-based cancer registry in 1993. The system was developed from an independent standpoint. Since 2008, Tochigi prefecture has introduced the standard registry system to improve the quality of data. It is important to introduce the standard registry system to compare the data with those of the Japan Cancer Surveillance Research Group. Using the system, coding, data input, personal identification, consolidation, and making a report became easy and accurate. However, it took a long time and lots of hard work to convert the previous data.